

2

調査結果

2 - 1

大気質・気象

施設及び最終処分場計画地周辺の大気質調査地点 6 地点のうち、1 から 4 の 4 地点において、春季（平成 17 年 4 月 13 日～27 日）、夏季（平成 17 年 7 月 14 日～28 日）、秋季（平成 17 年 10 月 13 日～27 日）、冬季（平成 18 年 1 月 11 日～25 日）に、連続 7 日間の調査を実施しました。

二酸化窒素等の大気質調査結果は表 - 2 に示したとおりです。

このうち、二酸化窒素及び二酸化硫黄の環境基準への適合状況は図 - 1、2 に示したとおりであり、全ての地点及び調査期間で同基準を満足していました。

大気質と同時に調査を実施した気象について、当該地域の風向は、各季とも概ね北の風が多くみられました。

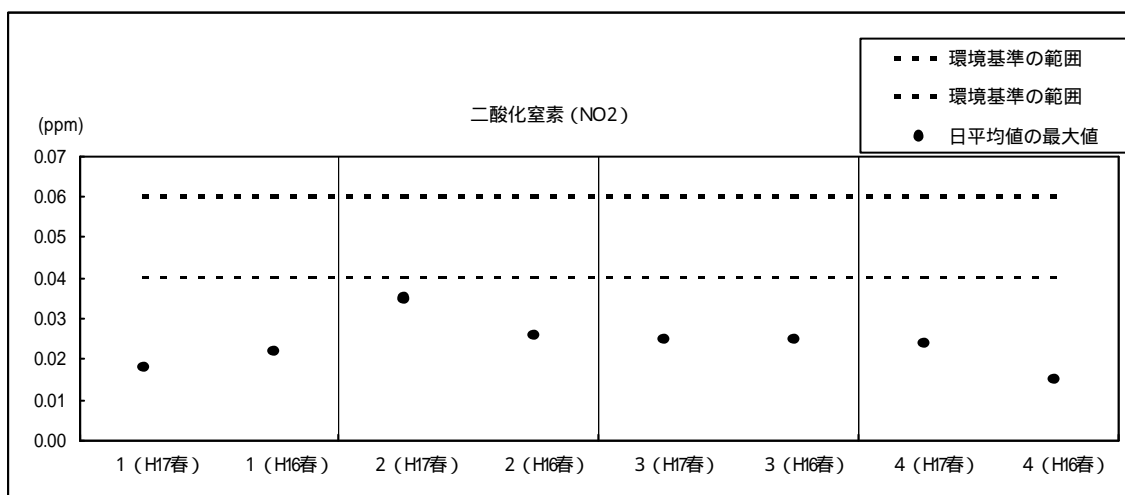


図 - 1 (1) 二酸化窒素 (NO₂) 調査結果 (春季)

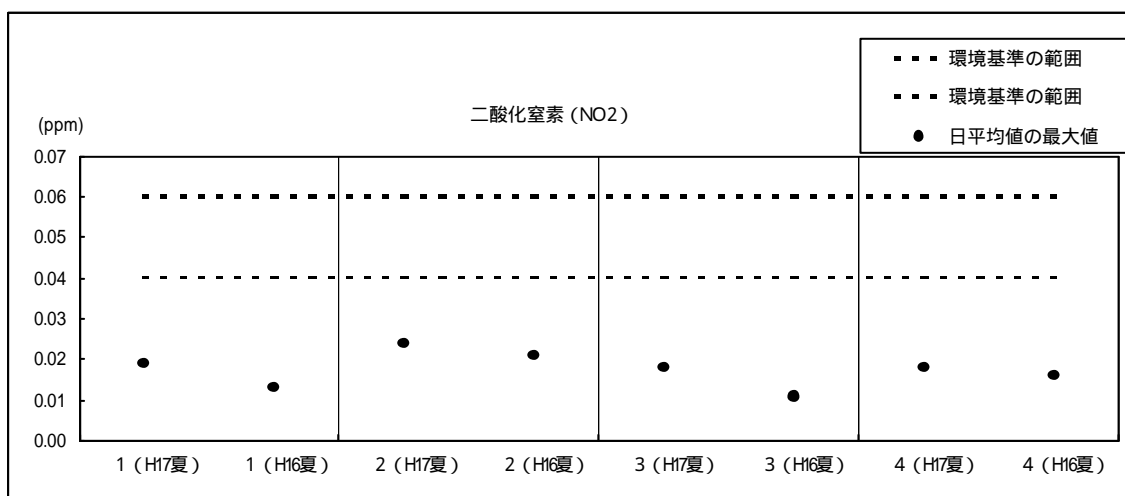


図 - 1 (2) 二酸化窒素 (NO₂) 調査結果 (夏季)

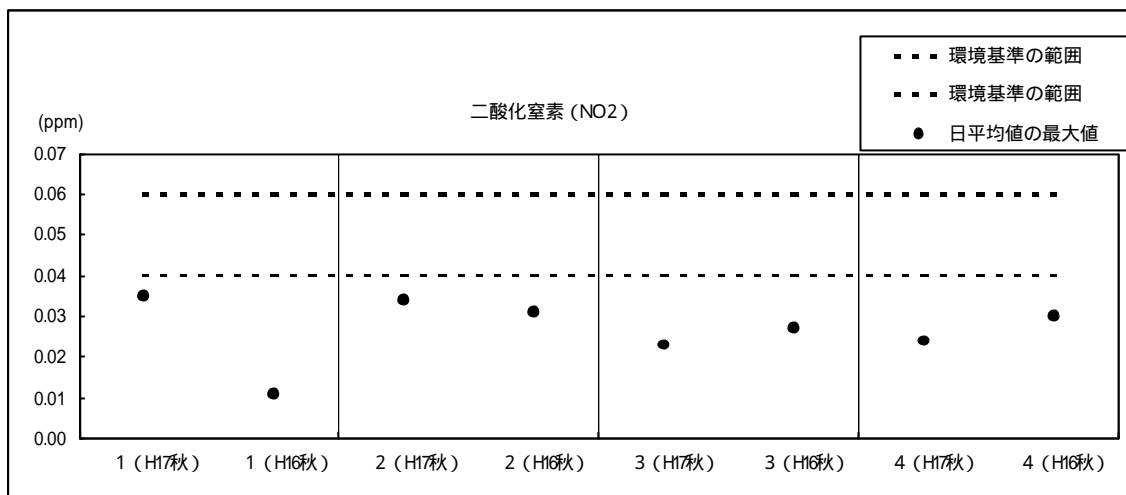


図 - 1 (3) 二酸化窒素 (NO₂) 調査結果 (秋季)

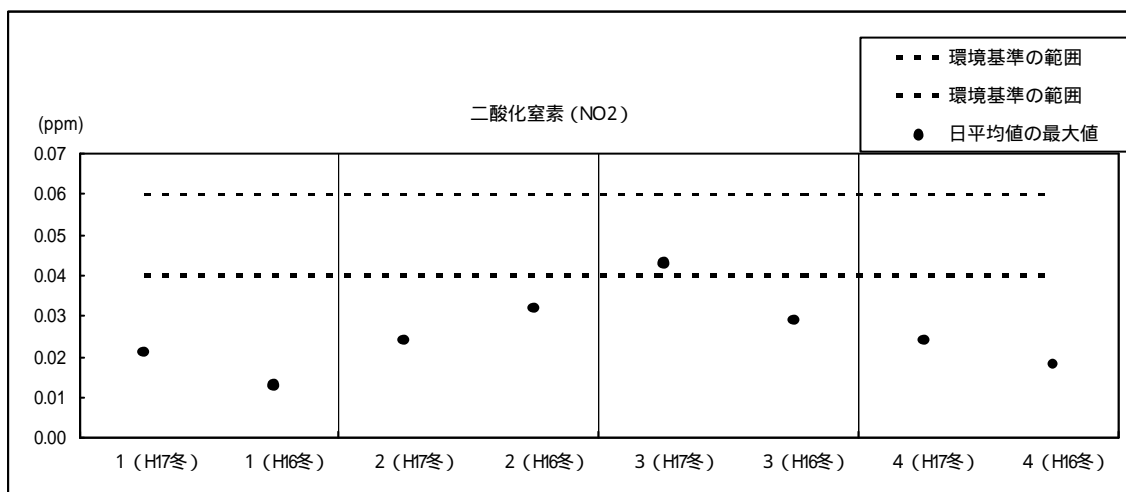


図 - 1 (3) 二酸化窒素 (NO₂) 調査結果 (冬季)

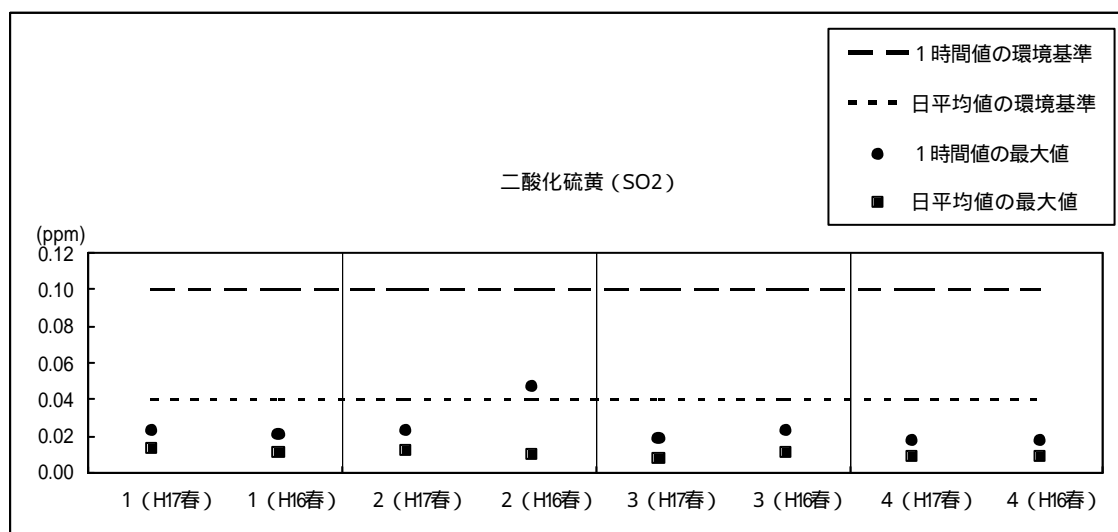


図 - 2 (1) 二酸化硫黄 (SO₂) 調査結果 (春季)

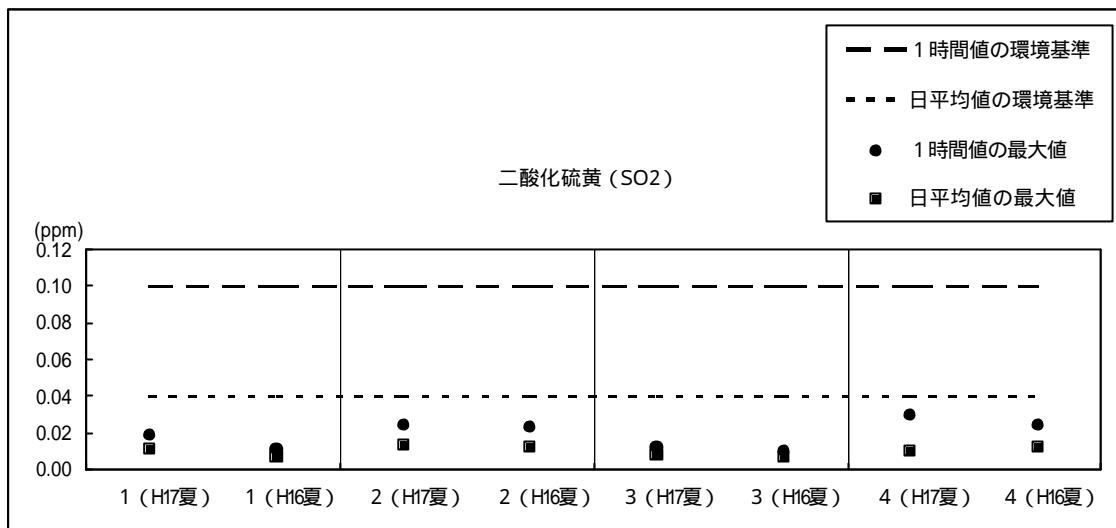


図 - 2 (2) 二酸化硫黄 (S O₂) 調査結果 (夏季)

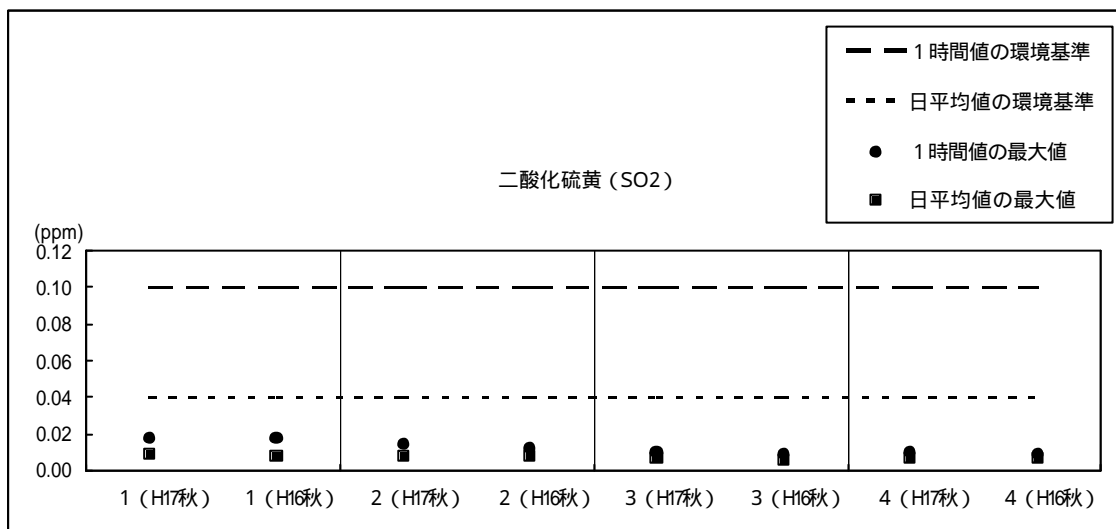


図 - 2 (3) 二酸化硫黄 (S O₂) 調査結果 (秋季)

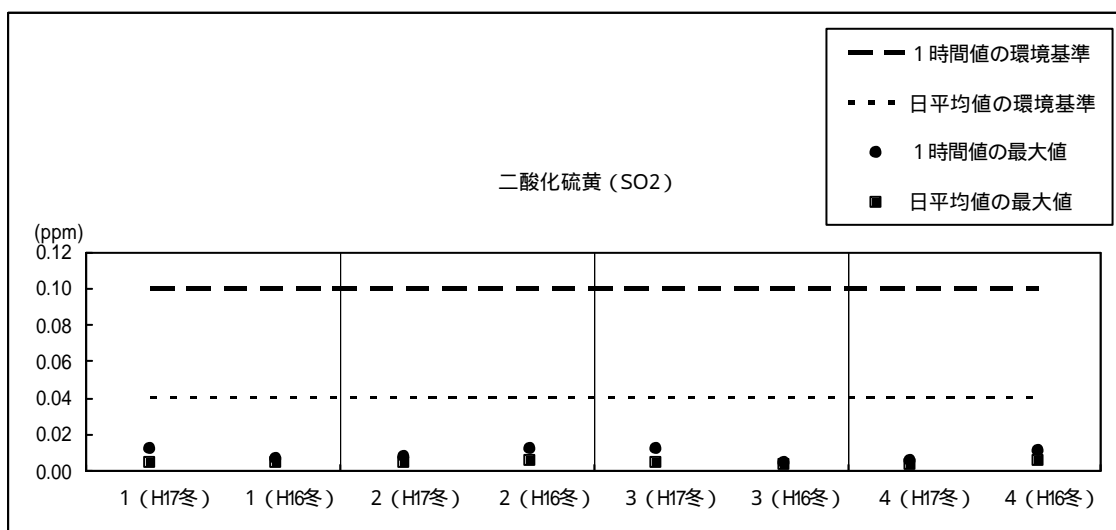


図 - 2 (4) 二酸化硫黄 (S O₂) 調査結果 (冬季)

表 - 2 (1) 大気質調査結果 (春季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.013	0.016	0.018	0.014	0.018	0.016	0.011	0.008
	日平均値	0.018	0.022	0.035	0.026	0.025	0.025	0.024	0.015
	1 時間値	0.042	0.047	0.060	0.055	0.052	0.050	0.044	0.051
SO ₂ (ppm)	平均値	0.010	0.008	0.009	0.005	0.007	0.008	0.006	0.005
	日平均値	0.013	0.011	0.012	0.010	0.008	0.011	0.009	0.009
	1 時間値	0.023	0.021	0.023	0.047	0.018	0.023	0.017	0.017
SPM (mg/m ³)	平均値	0.034	0.025	0.028	0.013	0.032	0.034	0.028	0.024
	日平均値	0.052	0.037	0.036	0.025	0.052	0.048	0.034	0.046
	1 時間値	0.072	0.059	0.068	0.041	0.133	0.079	0.080	0.086
CO (ppm)	平均値	0.2	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	0.2
	日平均値	0.3	0.1	0.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.2
	1 時間値	0.4	0.4	0.3	0.9	0.6	0.7	0.5	0.5
Ox (ppm)	平均値	0.042	0.044	0.041	0.054	0.038	0.033	0.041	0.055
	日平均値	0.050	0.064	0.048	0.066	0.049	0.048	0.045	0.061
	1 時間値	0.084	0.087	0.074	0.085	0.089	0.066	0.067	0.078

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1 時間値」は「1 時間値の最大値」を示します。

表 - 2 (2) 大気質調査結果 (夏季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.015	0.010	0.012	0.017	0.014	0.009	0.009	0.013
	日平均値	0.019	0.013	0.024	0.021	0.018	0.011	0.018	0.016
	1 時間値	0.048	0.032	0.055	0.040	0.046	0.028	0.044	0.036
SO ₂ (ppm)	平均値	0.010	0.005	0.010	0.009	0.006	0.006	0.007	0.008
	日平均値	0.011	0.006	0.013	0.012	0.008	0.007	0.010	0.012
	1 時間値	0.019	0.011	0.024	0.023	0.012	0.010	0.030	0.024
SPM (mg/m ³)	平均値	0.066	0.011	0.041	0.023	0.074	0.024	0.043	0.044
	日平均値	0.102	0.015	0.078	0.032	0.108	0.035	0.075	0.058
	1 時間値	0.156	0.031	0.109	0.056	0.213	0.078	0.213	0.109
CO (ppm)	平均値	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2
	日平均値	0.3	0.2	0.2	0.3	0.5	0.3	0.2	0.2
	1 時間値	0.5	0.3	0.7	0.6	0.8	0.4	0.6	0.4
Ox (ppm)	平均値	0.026	0.027	0.030	0.036	0.031	0.023	0.033	0.032
	日平均値	0.034	0.039	0.048	0.050	0.039	0.034	0.046	0.043
	1 時間値	0.107	0.092	0.123	0.110	0.116	0.082	0.116	0.091

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1 時間値」は「1 時間値の最大値」を示します。

表 - 2 (3) 大気質調査結果 (秋季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.018	0.006	0.020	0.024	0.016	0.015	0.014	0.020
	日平均値	0.035	0.011	0.034	0.031	0.023	0.027	0.024	0.030
	1 時間値	0.060	0.027	0.050	0.043	0.030	0.038	0.041	0.044
SO ₂ (ppm)	平均値	0.007	0.005	0.006	0.006	0.005	0.004	0.005	0.004
	日平均値	0.009	0.008	0.008	0.008	0.006	0.005	0.006	0.006
	1 時間値	0.017	0.017	0.014	0.012	0.010	0.009	0.010	0.009
SPM (mg/m ³)	平均値	0.008	0.011	0.008	0.017	0.026	0.025	0.023	0.023
	日平均値	0.010	0.019	0.016	0.030	0.033	0.034	0.045	0.041
	1 時間値	0.019	0.041	0.034	0.075	0.078	0.070	0.115	0.073
CO (ppm)	平均値	0.1	0.1	0.3	0.4	0.1	0.3	0.3	0.3
	日平均値	0.2	0.2	0.4	0.5	0.2	0.4	0.3	0.5
	1 時間値	0.4	0.3	1.1	1.2	0.4	0.7	0.6	0.8
Ox (ppm)	平均値	0.027	0.031	0.026	0.016	0.013	0.029	0.025	0.026
	日平均値	0.037	0.044	0.036	0.022	0.023	0.040	0.034	0.030
	1 時間値	0.065	0.060	0.051	0.046	0.052	0.064	0.050	0.060

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1 時間値」は「1 時間値の最大値」を示します。

表 - 2 (4) 大気質調査結果 (冬季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査	H17 事後調査	H16 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.010	0.005	0.013	0.021	0.022	0.012	0.010	0.010
	日平均値	0.021	0.013	0.024	0.032	0.043	0.029	0.024	0.018
	1 時間値	0.048	0.029	0.045	0.052	0.055	0.037	0.047	0.037
SO ₂ (ppm)	平均値	0.003	0.003	0.003	0.004	0.003	0.002	0.002	0.003
	日平均値	0.004	0.004	0.004	0.006	0.004	0.003	0.003	0.005
	1 時間値	0.012	0.007	0.008	0.012	0.012	0.004	0.006	0.011
SPM (mg/m ³)	平均値	0.008	0.005	0.004	0.008	0.025	0.012	0.012	0.018
	日平均値	0.013	0.010	0.005	0.016	0.048	0.021	0.020	0.033
	1 時間値	0.032	0.022	0.016	0.057	0.102	0.051	0.065	0.080
CO (ppm)	平均値	0.2	0.2	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3
	日平均値	0.3	0.2	0.3	0.6	0.5	0.4	0.3	0.5
	1 時間値	0.7	0.5	1.8	2.4	1.1	0.7	0.7	0.8
Ox (ppm)	平均値	0.030	0.036	0.034	0.021	0.026	0.027	0.037	0.023
	日平均値	0.043	0.045	0.046	0.035	0.042	0.038	0.047	0.037
	1 時間値	0.049	0.051	0.050	0.045	0.053	0.044	0.051	0.044

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1 時間値」は「1 時間値の最大値」を示します。

ダイオキシン類の調査結果は、表 - 3 に示したとおり、いずれも環境基準である「0.6pg-TEQ/m³以下」を大きく下回る良好な状況で、三重県が平成 16 年度に実施した調査結果と比べても、同程度の値でした。

また、今回の値を昨年度の調査結果と比較してみても、昨年度の値をやや上回る値もみられましたが、各地点、各季とも概ね同程度の値でした。

なお、ダイオキシン類の調査は、施設稼働前から実施しておりますが、これまでの結果を経年変化として表 - 4、図 - 3 に示しました。

その結果、施設の稼働前と稼働後では大きな変化はみられず、また、いずれも環境基準と比較すると大きく下回る値で推移しています。

表 - 3 ダイオキシン類の結果（単位：pg-TEQ/m³）

調査地点 調査時期		NO.1	NO.2	NO.3	NO.4	5	6	三重県の調査結果 (県内 24 地点)
平成 17 年度	春季	0.074	0.019	0.032	0.035	0.029	0.020	0.037 (0.0087 ~ 0.12)
	夏季	0.024	0.016	0.023	0.036	-	-	0.027 (0.0081 ~ 0.077)
	秋季	0.034	0.016	0.042	0.032	0.023	0.018	0.062 (0.014 ~ 0.54)
	冬季	0.039	0.046	0.048	0.041	-	-	0.034 (0.0099 ~ 0.096)
	年平均値	0.043	0.024	0.036	0.036	0.026	0.019	0.040 (0.010 ~ 0.16)
平成 16 年度	春季	0.038	0.019	0.033	0.022	0.031	0.021	
	夏季	0.014	0.020	0.019	0.026	-	-	
	秋季	0.013	0.029	0.052	0.039	0.034	0.018	
	冬季	0.021	0.029	0.020	0.058	-	-	
	年平均値	0.022	0.024	0.031	0.036	0.033	0.020	

注 1) ダイオキシン類の大気汚染に係る環境基準は、「0.6pg-TEQ/m³以下（環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日）」です。

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 16 年度ダイオキシン類環境調査結果（環境森林部地球温暖化対策室、平成 17 年 5 月 30 日）」の各季の値「平均値（最小値～最大値）」及び各地点の年平均値「平均値（最小値～最大値）」です。

表 - 4 ダイオキシン類調査結果（年平均値）の地点別経年変化

（単位：pg-TEQ/m³）

年度 地点	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
1	0.080	0.035	0.032	0.032	0.022	0.043
2	0.077	0.040	0.045	0.029	0.024	0.024
3	0.082	0.027	0.057	0.047	0.031	0.036
4	0.083	0.035	0.048	0.044	0.036	0.036
5			0.055	0.058	0.033	0.026
6			0.039	0.048	0.020	0.019

注 1）施設は平成 14 年 12 月より供用開始。

注 2）表中の値は、年 4 回（各季 1 回）実施した値の平均値。

注 3） 5、6 は臨時調査地点のため、平成 14 年度より年間 2 回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度 2 回の平均値。

注 4）調査地点について、 1、2 は平成 13 年度以前と、平成 14 年度以降では地点を変更している。

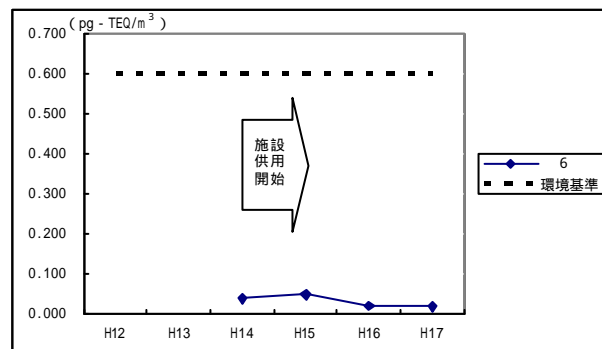
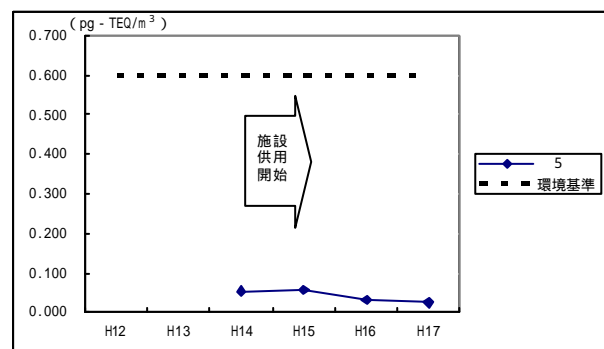
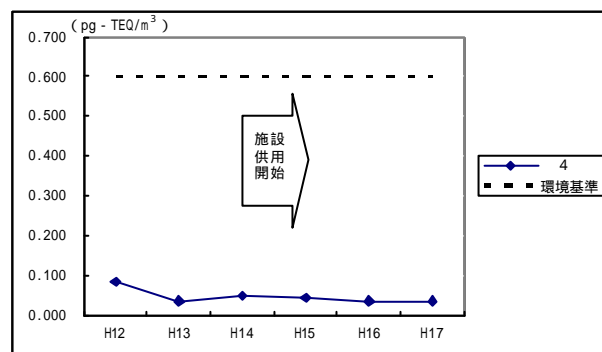
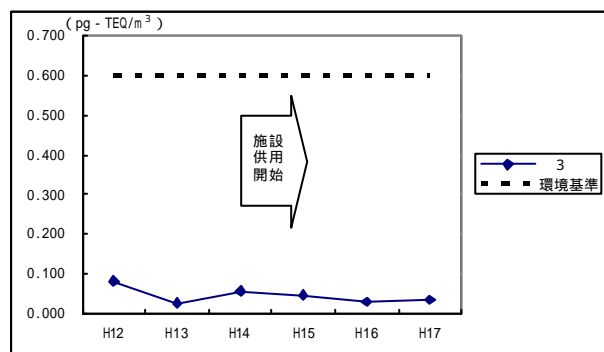
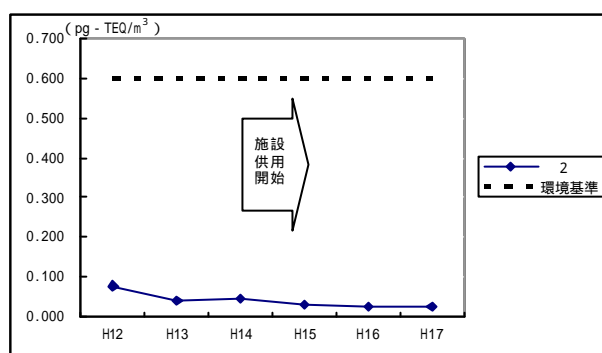
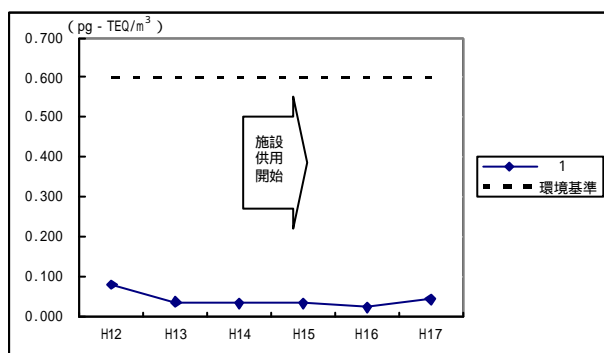


図 - 3 ダイオキシン類調査結果の地点別経年変化

ダイオキシン類を除く環境ホルモンについては、冬季に3地点で調査を行いました。
その結果は表-5に示したとおりです。
表に示した物質以外はいずれも定量下限値未満でした。

表-5 環境ホルモン調査結果（検出した物質のみ抜粋）

物質名	単位	平成17年度			平成16年度		
		1	2	3	1	2	3
ポリ塩化ビフェニル（PCB）	ng/m ³	0.075	0.091	0.078	0.17	0.16	0.14
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/m ³	0.02	<0.01	0.04	<0.01	<0.01	0.01
ベンゾ（a）ピレン	ng/m ³	0.06	0.08	0.08	0.17	0.22	0.23

今回の値を、環境省が実施した調査結果と比較すると、表-6に示したとおり、いずれも同調査結果の範囲内でした。

表-6 環境省の実施した調査結果との比較

物質名	単位	今回の調査結果	環境省の調査結果
ポリ塩化ビフェニル（PCB）	ng/m ³	0.075～0.091	0.016～0.88 （102検体）
ベンゾ（a）ピレン	ng/m ³	0.06～0.08	0.021～2.4 （198検体）

注1）環境省の調査結果は「平成16年度第2回内分泌攪乱化学物質問題検討会 添付資料」（平成16年12月）による。

注2）「フタル酸ジ-2-エチルヘキシル」については、調査が行われていない。

また、調査地点6地点のうち、春季及び秋季は1、2、3、6の4地点で、夏季及び冬季は1、2、3の3地点で重金属類である総水銀、カドミウム、鉛の3項目の調査を実施しました。

調査結果は表-7に示したとおり、昨年度の調査結果と比較しても同程度で変化はみられませんでした。

春季では、カドミウムはいずれの地点も定量下限値（0.001μg/m³）未満、鉛は定量下限値（0.01μg/m³）未満～0.03μg/m³、総水銀は0.0012μg/m³～0.0025μg/m³でした。

夏季では、カドミウムはいずれの地点も定量下限値（0.001μg/m³）未満、鉛は定量下限値（0.01μg/m³）未満～0.01μg/m³、総水銀は0.0023μg/m³～0.0028μg/m³でした。

秋季では、カドミウムはいずれの地点も定量下限値（0.001μg/m³）未満、鉛もいずれの地点で定量下限値（0.01μg/m³）未満、総水銀は0.0016μg/m³～0.0026μg/m³でした。

冬季では、カドミウムはいずれの地点も定量下限値（0.001μg/m³）未満、鉛もいずれの地点で定量下限値（0.01μg/m³）未満、総水銀は0.0022μg/m³～0.0026μg/m³でした。

なお、総水銀については、平成15年7月に、環境省中央環境審議会答申において、年平均値

としての指針値（ $0.04\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下）が示されていますが、いずれもこの値を大きく下回る値でした。

重金属類の調査は、平成 13 年度より実施していますが、これまでの結果を経年変化として表 - 8 に示しました。

その結果、いずれの値も低く、総水銀については、指針値（ $0.04\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下）を大きく下回る値で推移しています。

表 - 7 (1) 重金属類調査結果（春季）

項 目	単 位	平成 17 年度事後調査				平成 16 年度事後調査			
		1	2	3	6	1	2	3	6
カドミウム	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.01	<0.01	<0.01	0.03	0.01	0.03	0.02	<0.01
総水銀	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.0025	0.0021	0.0023	0.0012	0.0034	0.0021	0.0022	0.0023

注) 調査期間：平成 17 年 4 月 12 日～22 日

表 - 7 (2) 重金属類調査結果（夏季）

項 目	単 位	平成 17 年度事後調査			平成 16 年度事後調査		
		1	2	3	1	2	3
カドミウム	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
総水銀	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.0023	0.0027	0.0028	0.0018	0.0013	0.0019

注 1) 調査期間：平成 17 年 7 月 13 日～22 日

注 2) 6 は春季・秋季のみ実施

表 - 7 (3) 重金属類調査結果（秋季）

項 目	単 位	平成 17 年度事後調査				平成 16 年度事後調査			
		1	2	3	6	1	2	3	6
カドミウム	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01
総水銀	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.0026	0.0019	0.0019	0.0016	0.0026	0.0023	0.0021	0.0027

注) 調査期間：平成 17 年 10 月 12 日～25 日

表 - 7 (4) 重金属類調査結果（冬季）

項 目	単 位	平成 17 年度事後調査			平成 16 年度事後調査		
		1	2	3	1	2	3
カドミウム	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
総水銀	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.0026	0.0022	0.0023	0.0019	0.0023	0.0025

注 1) 調査期間：平成 18 年 1 月 10 日～19 日

注 2) 6 は春季・秋季のみ実施

表 - 8 (1) カドミウム調査結果の地点別経年変化

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

年度 地点	現況調査 結果	事後調査結果				
		H13	H14	H15	H16	H17
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
6			<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

注 1) 施設は平成 14 年 12 月より供用開始。

注 2) 表中の値は、年 4 回 (各季 1 回) 実施した値の平均値。

注 3) 6 は臨時調査地点のため、平成 14 年度より年間 2 回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度 2 回の平均値。

注 4) 調査地点について、現況調査時と事後調査では地点を若干変更している。また、事後調査の 1、2 は平成 13 年度と、平成 14 年度以降では地点を変更している。

表 - 8 (2) 鉛調査結果の地点別経年変化

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

年度 地点	現況調査 結果	事後調査結果				
		H13	H14	H15	H16	H17
1	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	<0.01
2	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01
3	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	<0.01
6			0.01	0.02	<0.01	0.02

注 1) 施設は平成 14 年 12 月より供用開始。

注 2) 表中の値は、年 4 回 (各季 1 回) 実施した値の平均値。

注 3) 6 は臨時調査地点のため、平成 14 年度より年間 2 回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度 2 回の平均値。

注 4) 調査地点について、現況調査時と事後調査では地点を若干変更している。また、事後調査の 1、2 は平成 13 年度と、平成 14 年度以降では地点を変更している。

表 - 8 (3) 総水銀調査結果の地点別経年変化

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

年度 地点	現況調査 結果	事後調査結果					指針値
		H13	H14	H15	H16	H17	
1	0.002	0.002	0.002	0.0025	0.0024	0.0025	0.04 以下
2	0.002	0.002	0.002	0.0024	0.0020	0.0022	
3	0.002	0.002	0.002	0.0019	0.0022	0.0023	
6			0.003	0.0029	0.0025	0.0014	

注 1) 施設は平成 14 年 12 月より供用開始。

注 2) 表中の値は、年 4 回 (各季 1 回) 実施した値の平均値。

注 3) 6 は臨時調査地点のため、平成 14 年度より年間 2 回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度 2 回の平均値。

注 4) 調査地点について、現況調査時と事後調査では地点を若干変更している。また、事後調査の 1、2 は平成 13 年度と、平成 14 年度以降では地点を変更している。

: 指針値とは、「環境省中央環境審議会答申における年平均値としての指針値 (平成 15 年 7 月)」を示す。

施設においては、排ガスの測定（ばい煙測定・自動測定機器による連続測定）を実施しています。

ばい煙の測定結果は表 - 9 に示したとおりです。

自動測定機器による連続測定は、廃棄物の処理を行っている間実施しており、その結果は、施設において閲覧に供するとともに、当事業団のホームページに掲載しています。

排ガス測定の結果は、ばい煙測定及び自動測定機器による連続測定とも、自主管理基準値を満足していました。

ダイオキシン類については、図 - 4 ～ 6 にも示したとおり、自主管理基準値を大きく下回る値でした。

なお、平成 18 年 1 月から 3 月にかけて実施したクロスチェック機関における測定結果は表 - 10 に示したとおりであり、測定結果に大きな差はみられませんでした。

また、参考として、ダイオキシン類及び重金属類について、施設稼働後からの調査結果を表 - 11 に示しました。

表 - 9 (1) ばい煙測定結果 (平成 17 年 4 月 ~ 6 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準値
		4 月	5 月	6 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	8	9	13	20 以下
	2 号炉	2	6	9	
	3 号炉	6	6	9	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	25	16	6 未満	50 以下
	2 号炉	28	37	22	
	3 号炉	7 未満	27	38	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	4	2	5	30 以下
	2 号炉	2	1	10	
	3 号炉	4	5	5	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.000042	0.000042	0.000052	0.1 以下
	2 号炉	0.000032	0.0000064	0.0000019	
	3 号炉	0.000069	0.000063	0.000032	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) (4 時間平均値)	1 号炉	2	5	2 未満	30 以下
	2 号炉	2	2 未満	2	
	3 号炉	6	2	2 未満	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	6.7	6.1	7.2	
	2 号炉	7.4	6.5	7.2	
	3 号炉	7.9	6.3	6.8	

注) 4 月の測定日は、1 号炉：4 月 19 日、2 号炉：4 月 20 日、3 号炉：4 月 7 日、
5 月は、1 号炉：5 月 11 日、2 号炉：5 月 23 日、3 号炉：5 月 10 日、
6 月は、1 号炉：6 月 2 日、2 号炉：6 月 7 日、3 号炉：6 月 24 日です。

表 - 9 (2) ばい煙測定結果 (平成 17 年 7 月 ~ 9 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準値
		7 月	8 月	9 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	13	10	6	20 以下
	2 号炉	14	10	6	
	3 号炉	9	12	11	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	13	24	36	50 以下
	2 号炉	27	16	31	
	3 号炉	34	30	13	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	1	3	14	30 以下
	2 号炉	4	10	6	
	3 号炉	3	12	4	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.00018	0.000070	0.00030	0.1 以下
	2 号炉	0.000042	0.00016	0.00012	
	3 号炉	0.00014	0.0000048	0.00012	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) (4 時間平均値)	1 号炉	3	5	10	30 以下
	2 号炉	2	2 未満	2 未満	
	3 号炉	2 未満	4	2	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	6.9	7.0	8.3	
	2 号炉	5.7	6.6	8.7	
	3 号炉	6.6	8.0	6.8	

注) 7 月の測定日は、1 号炉：7 月 20 日、2 号炉：7 月 6 日、3 号炉：7 月 21 日、
8 月は、1 号炉：8 月 2 日、2 号炉：8 月 25 日、3 号炉：8 月 12 日、
9 月は、1 号炉：9 月 2 日、2 号炉：9 月 6 日、3 号炉：9 月 13 日です。

表 - 9 (3) ばい煙測定結果 (平成 17 年 10 月 ~ 12 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準値
		10 月	11 月	12 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	-	0.001 未満 0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	1	1	3	20 以下
	2 号炉	15	8	1 未満	
	3 号炉	5	-	1 未満 6	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	23	29	30	50 以下
	2 号炉	23	27	39	
	3 号炉	25	-	38 31	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	1 未満	1 未満	3	30 以下
	2 号炉	1 未満	2	1 未満	
	3 号炉	1 未満	-	1 未満 4	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.000058	0.0000045	0.0000031	0.1 以下
	2 号炉	0.000042	0.0000057	0.0000038	
	3 号炉	0.00012	-	0.0000039 0.0000024	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) (4 時間平均値)	1 号炉	4	7	12	30 以下
	2 号炉	4	8	7	
	3 号炉	2 未満	-	12 13	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	-	0.01 未満 0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	-	0.01 未満 0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	-	0.1 未満 0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	7.4	7.3	7.4	
	2 号炉	8.4	8.2	8.8	
	3 号炉	7.4	-	9.3 8.0	

注 1) 10 月の測定日は、1 号炉 : 10 月 18 日、2 号炉 : 10 月 5 日、3 号炉 : 10 月 4 日、
11 月は、1 号炉 : 11 月 15 日、2 号炉 : 11 月 16 日、
12 月は、1 号炉 : 12 月 2 日、2 号炉 : 12 月 1 日、3 号炉 : 12 月 9・20 日です。

注 2) 11 月の 3 号炉の測定は、年次点検との調整が出来なかったため、11 月分を 12 月に実施しました。

表 - 9 (4) ばい煙測定結果 (平成 18 年 1 月 ~ 3 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準値
		1 月	2 月	3 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	-	0.001 未満 0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	-	14 4	2	20 以下
	2 号炉	2	1 未満	9	
	3 号炉	11	12	12	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	-	24 18	34	50 以下
	2 号炉	21	33	27	
	3 号炉	22	26	26	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	-	5 2	1	30 以下
	2 号炉	1	18	2	
	3 号炉	11	8	9	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	-	0.00053 0.00000046	0.00000058	0.1 以下
	2 号炉	0.00045	0.00000034	0.00000063	
	3 号炉	0.0013	0.00000046	0.00000053	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) (4 時間平均値)	1 号炉	-	10 6	3	30 以下
	2 号炉	9	12	15	
	3 号炉	9	13	7	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	-	0.01 未満 0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	-	0.01 未満 0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	-	0.1 未満 0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	-	6.3 6.0	6.5	
	2 号炉	5.7	6.8	6.6	
	3 号炉	7.3	7.2	7.8	

注 1) 1 月の測定日は、2 号炉 : 1 月 18 日、3 号炉 : 1 月 17 日、

2 月は、1 号炉 : 2 月 10・21 日、2 号炉 : 2 月 8 日、3 号炉 : 2 月 9 日、

3 月は、1 号炉 : 3 月 6 日、2 号炉 : 3 月 28 日、3 号炉 : 3 月 7 日です。

注 2) 1 月の 1 号炉の測定は、施設の稼働と排ガス測定日の日程調整が出来なかったため、1 月分を 2 月に実施しました。

注 3) 1 月の 2・3 号炉及び 2 月の 1 号炉 1 回目の総水銀濃度測定は、1 月 17・18 日及び 2 月 10 日のクロスチェック測定において同一条件でサンプリングが出来なかったため、2 月 10 日及び 3 月 6 日に実施しました。

表 - 10 ばい煙測定結果（クロスチェック機関分）

項 目	測定日・測定炉		測定結果	自主管理 基準値
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	2月10日	1号炉	0.001 未満	0.01 以下
	1月18日	2号炉	0.001 未満	
	1月17日	3号炉	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	2月10日	1号炉	10	20 以下
	1月18日	2号炉	1	
	1月17日	3号炉	8	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	2月10日	1号炉	31	50 以下
	1月18日	2号炉	23	
	1月17日	3号炉	23	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	2月10日	1号炉	1	30 以下
	1月18日	2号炉	1 未満	
	1月17日	3号炉	3	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	2月10日	1号炉	0.00089	0.1 以下
	1月18日	2号炉	0.0016	
	1月17日	3号炉	0.0020	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) 4時間平均値	2月10日	1号炉	3	30 以下
	1月18日	2号炉	2 未満	
	1月17日	3号炉	2 未満	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	3月 6日	1号炉	0.01 未満	
	2月10日	2号炉	0.01 未満	
	2月10日	3号炉	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	2月10日	1号炉	0.01 未満	
	1月18日	2号炉	0.01 未満	
	1月17日	3号炉	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	2月10日	1号炉	0.1 未満	
	1月18日	2号炉	0.1 未満	
	1月17日	3号炉	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	2月10日	1号炉	6.6	
	1月18日	2号炉	5.7	
	1月17日	3号炉	7.1	

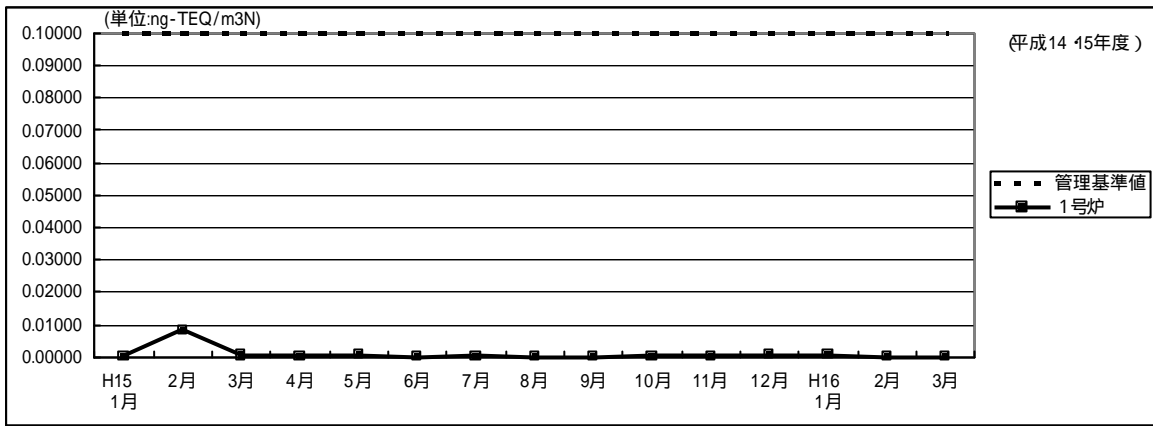


図 - 4 (1) ダイオキシン類月別変化 (1 号炉)

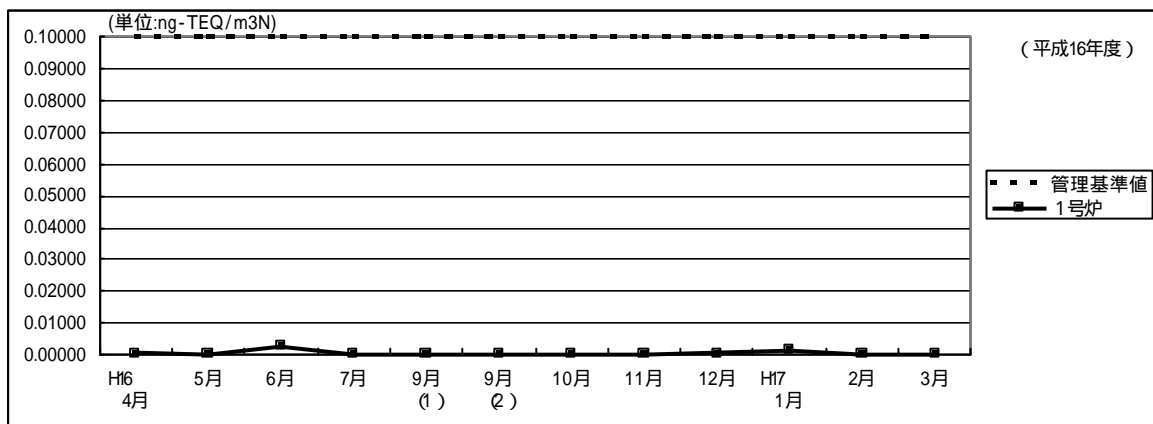


図 - 4 (2) ダイオキシン類月別変化 (1 号炉)

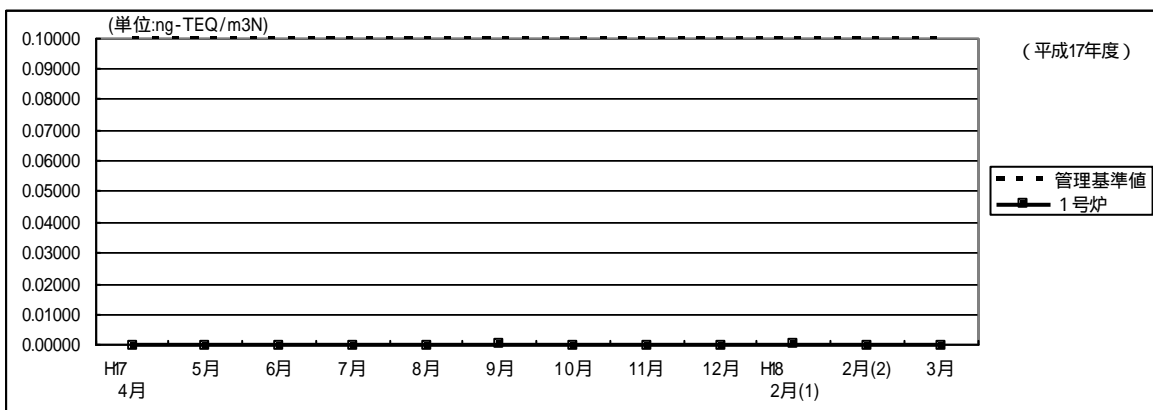


図 - 4 (3) ダイオキシン類月別変化 (1 号炉)

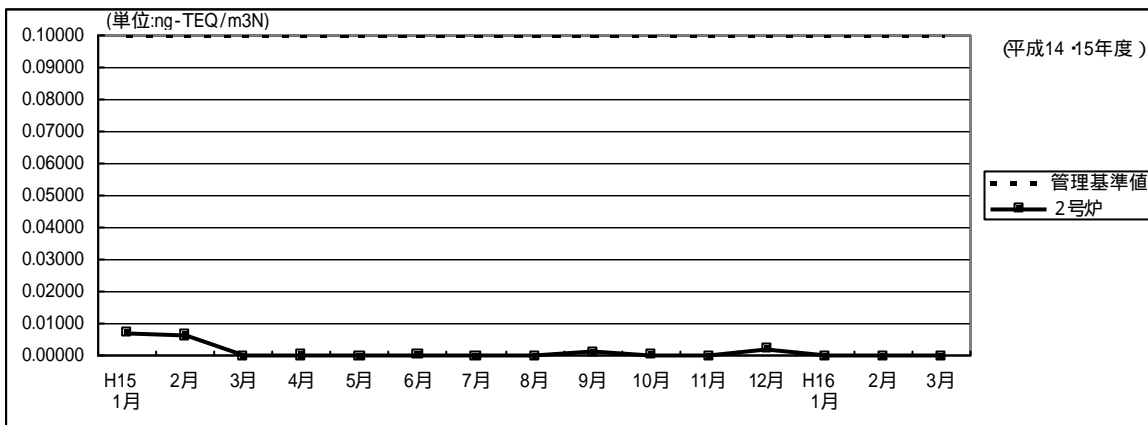


図 - 5 (1) ダイオキシン類月別変化 (2 号炉)

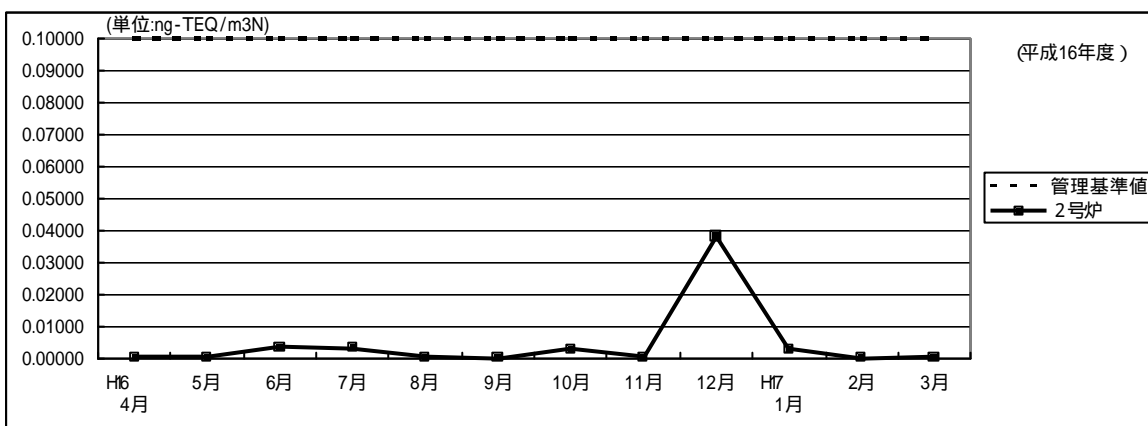


図 - 5 (2) ダイオキシン類月別変化 (2 号炉)

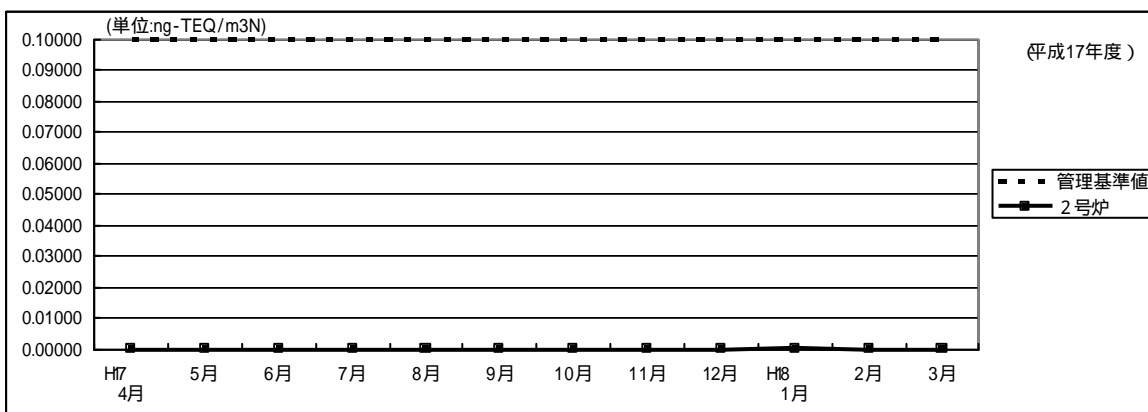


図 - 5 (3) ダイオキシン類月別変化 (2 号炉)

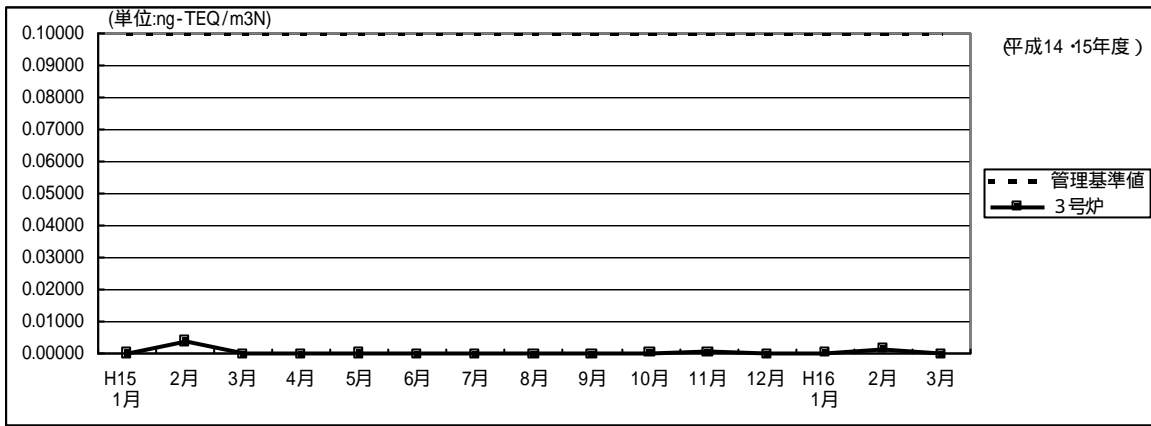


図 - 6 (1) ダイオキシン類月別変化 (3 号炉)

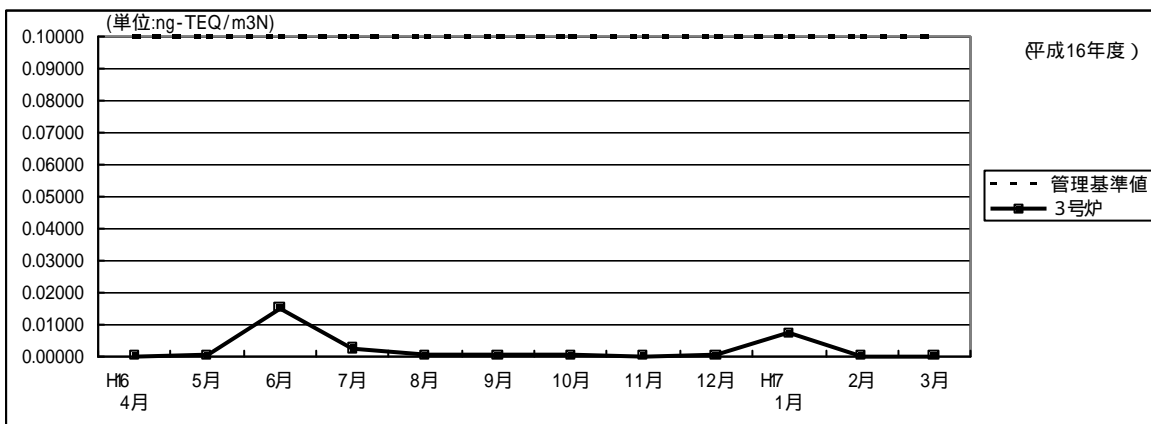


図 - 6 (2) ダイオキシン類月別変化 (3 号炉)

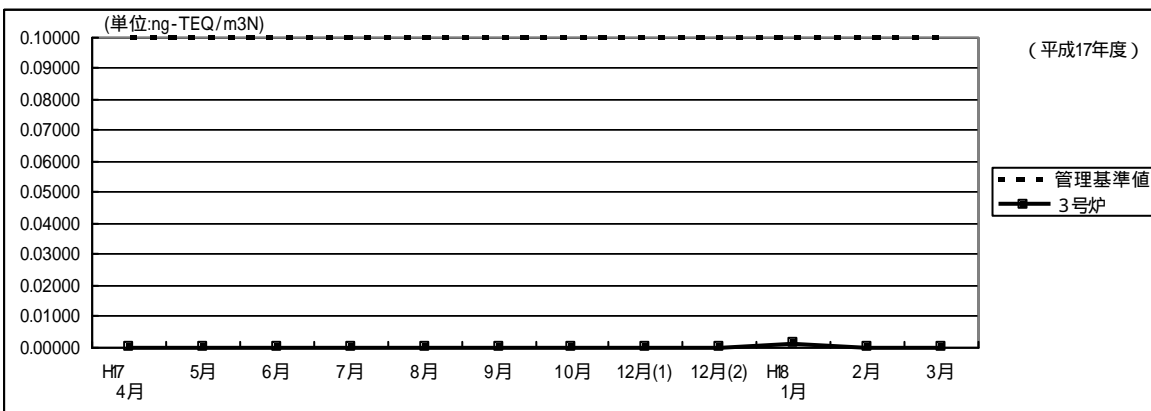


図 - 6 (3) ダイオキシン類月別変化 (3 号炉)

表 - 11 ばい煙（ダイオキシン類・重金属類）測定結果（平成 14 年度～平成 16 年度）

項 目	測定炉	平成14年度			平成15年度					自主管理 基準値
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.00020	0.0083	0.00047	0.00011	0.00051	0.000093	0.00012	0.000051	0.1以下
	2号炉	0.0074	0.0065	0.00018	0.00032	0.00013	0.00048	0.00011	0.00019	
	3号炉	0.00027	0.0040	0.000083	0.00019	0.00033	0.00012	0.000031	0.000052	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満		0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	2号炉	0.1未満		0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満		0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

項 目	測定炉	平成15年度							自主管理 基準値
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.000052	0.00030	0.00012	0.00063	0.00051	0.000088	0.000093	0.1以下
	2号炉	0.0013	0.00054	0.000071	0.0022	0.00017	0.00015	0.000084	
	3号炉	0.000072	0.00042	0.00069	0.000091	0.00037	0.0018	0.000090	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

項 目	測定炉	平成16年度						自主管理 基準値
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.00049	0.00020	0.0027	0.00014	-	0.00021	0.1以下
	1号炉	-	-	-	-	-	0.00012	
	2号炉	0.00024	0.00019	0.0033	0.0031	0.00014	0.000065	
	3号炉	0.000069	0.00010	0.015	0.0023	0.00017	0.00022	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	-	0.01未満	
	1号炉	-	-	-	-	-	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	-	0.01未満	
	1号炉	-	-	-	-	-	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	-	0.1未満	
	1号炉	-	-	-	-	-	0.1未満	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

項 目	測定炉	平成16年度						自主管理 基準値
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.00010	0.00022	0.00048	0.0015	0.00019	0.00018	0.1以下
	2号炉	0.0027	0.00015	0.038	0.0028	0.000079	0.00014	
	3号炉	0.00027	0.000063	0.00012	0.0070	0.000078	0.000092	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

：平成16年8月の1号炉は、施設の稼働と排ガス測定日の日程調整が出来なかったため、測定を9月に実施しました。

施設からの騒音・振動の影響を把握するため、施設敷地境界 3 地点において工場騒音・工場振動の調査を実施しました。

各季の騒音レベルの調査結果は、図 - 7 に示したとおり、いずれも管理基準値と同値か、それを下回る値でした。

振動レベルは、春季、夏季は全ての地点、時間帯で 30dB 未満（測定機器の保証最低値 30dB）でしたが、秋季は、 3 の昼間の時間帯で 30dB、冬季は、 3 の昼間の時間帯が 31dB、夜の時間帯が 35dB でした。

また、施設の稼働に伴う騒音・振動の影響を把握するため、施設周辺 2 地点、最終処分場計画地周辺 2 地点で環境騒音・環境振動の調査を実施しました。

環境騒音の騒音レベル(L_{Aeq})は、春季の 1 の昼間が 55dB、夜間が 46dB、 2 の昼間が 47dB、夜間が 39dB、 3 の昼間が 46dB、夜間が 39dB、 4 の昼間が 46dB、夜間が 41dB でした。

夏季では、 1 の昼間が 61dB、夜間が 53dB、 2 の昼間が 50dB、夜間が 44dB、 3 の昼間が 59dB、夜間が 53dB、 4 の昼間が 54dB、夜間が 45dB でした。

秋季では、 1 の昼間が 54dB、夜間が 47dB、 2 の昼間が 51dB、夜間が 44dB、 3 の昼間が 45dB、夜間が 36dB、 4 の昼間が 45dB、夜間が 36dB でした。

冬季では、 1 の昼間が 55dB、夜間が 50dB、 2 の昼間が 53dB、夜間が 42dB、 3 の昼間が 41dB、夜間が 34dB、 4 の昼間が 44dB、夜間が 38dB でした。

そのうち、 1 については、環境基準の A 類型（A 地域のうち、2 車線以上の車線を有する道路に面する地域）に指定されており、昼間は 60dB 以下、夜間は 55dB 以下と定められています。

今回の調査においては、夏季調査時に昼間の値が同基準値を上回りましたが、これはセミの鳴き声の影響によるものでした。

環境振動は、各季とも全ての地点、時間帯で 30dB 未満でした。

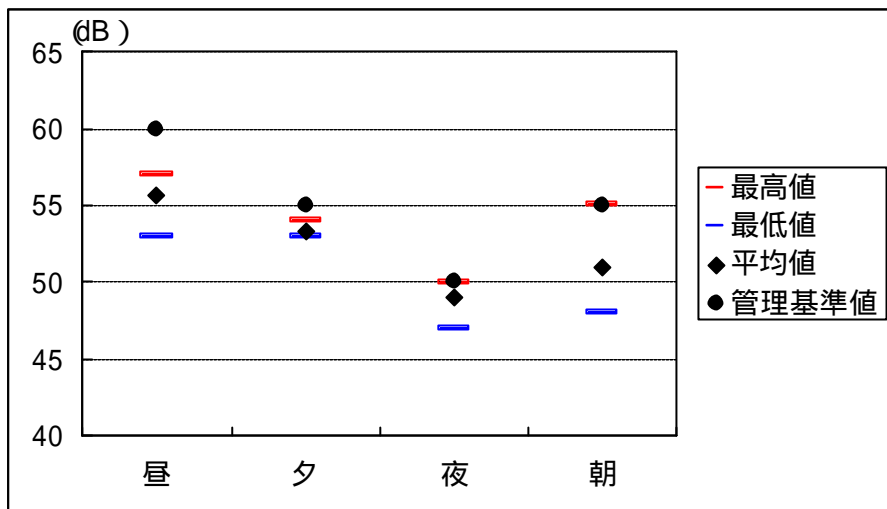


図 - 7 (1) 工場騒音測定結果 (春季)

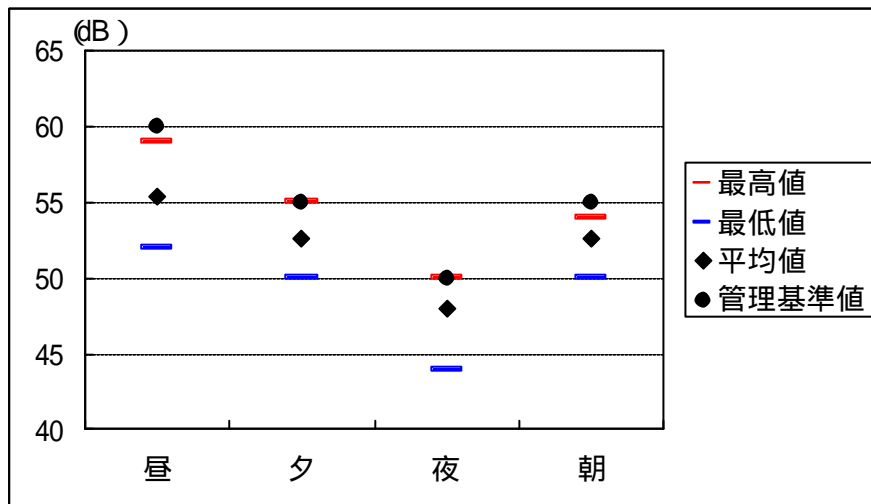


図 - 7 (2) 工場騒音測定結果 (夏季)

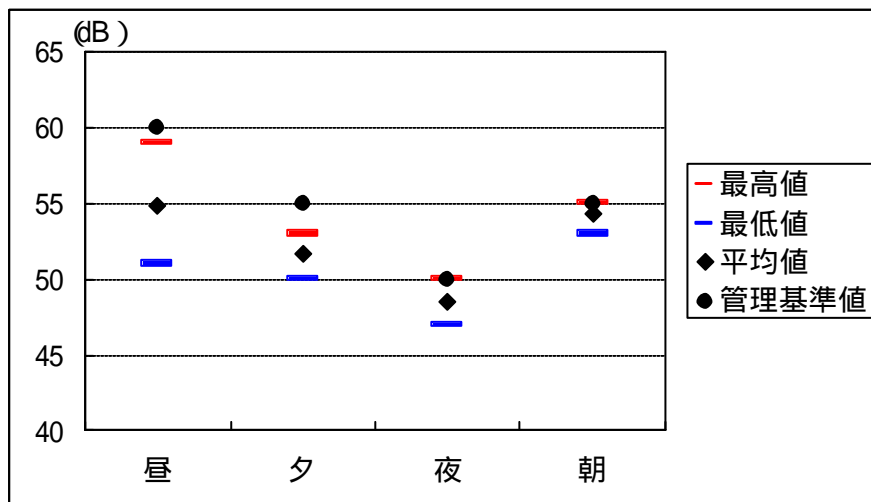


図 - 7 (3) 工場騒音測定結果 (秋季)

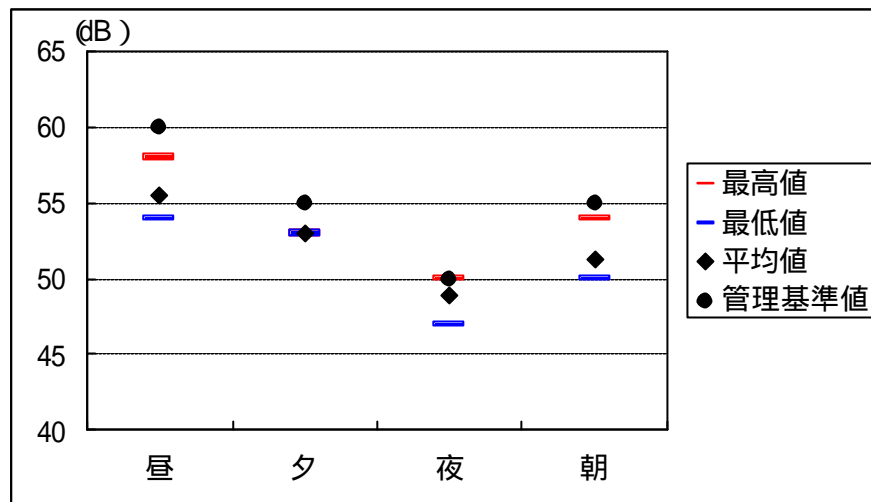


図 - 7 (4) 工場騒音測定結果 (冬季)

2 - 3 悪 臭

予め設定した施設敷地境界 2 地点 (1、 2) と、最終処分場計画地敷地境界 6 地点 (3 ~ 8) のうち、測定当日の風向を考慮した風下側の 2 地点を選定して、各季とも 1、2、 7、 8 の 4 地点で調査を実施しました。

その結果、各季とも、全ての調査地点で特定悪臭物質は検出されませんでした。

また、人の嗅覚により試験を行う臭気指数についても、各季とも全ての調査地点で 10 未満でした。

最終処分場計画地下流 2 地点において、河川水の水質調査を実施しました。

その結果、主な項目について昨年度の調査結果とともに表 - 12 に示しました。

昨年度の調査結果と比べて、全磷でやや高い値がみられました。

表に示した項目以外の項目（健康項目等）については、ほとんどの項目で昨年度と同程度の値でした。

表 - 12 主な項目の調査結果

	単位	1		2	
		平成17年度 事後調査	平成16年度 事後調査	平成17年度 事後調査	平成16年度 事後調査
水素イオン濃度 (pH)	-	7.4 (6.8~7.8)	7.4 (6.9~8.2)	7.9 (6.9~8.4)	7.8 (7.3~8.4)
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg-O/L	1.1 (0.5~1.5)	1.3 (0.8~1.7)	1.2 (0.9~1.5)	1.9 (1.2~2.9)
化学的酸素要 求量(COD)	mg-O/L	2.9 (2.0~3.6)	2.8 (1.7~3.8)	3.9 (3.0~4.6)	4.1 (2.9~5.3)
浮遊物質 量(SS)	mg/L	2.9 (<1.0~4.9)	2.5 (<1.0~5.4)	2.3 (<1.0~4.0)	2.5 (<1.0~7.0)
全窒素	mg-N/L	13 (6.4~20)	12 (8.1~16)	14 (11~18)	13 (8.7~17)
全磷	mg-P/L	0.043 (0.022~0.062)	0.027 (0.012~0.044)	0.049 (0.022~0.086)	0.035 (0.012~0.069)

注) 表中の数字は平均値を、() 内は出現範囲を示す。

また、環境ホルモンの調査では、夏季にダイオキシン類の調査を、冬季にはダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しました。

その結果は、表 - 13 に示したとおり、ダイオキシン類では、夏季は昨年度の調査結果をやや上回りましたが、冬季ではやや下回る値でした。

また、三重県が平成 16 年度に実施した調査の平均値と比べると、表 - 14 に示したとおり、これを下回る値でした。

その他の環境ホルモンでは、表 - 15 に示したとおり、ビスフェノールA、フタル酸ジ - n - ブチル、メソミルの 3 物質が検出されましたが、その値は検出下限値と同程度の低い結果でした。

表 - 13 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類）

（単位：pg-TEQ/L）

地 点	事後調査			三重県の調査結果 (夏季：県内 41 地点) (冬季：県内 10 地点)
1	平成 17 年度	夏季	0.42	0.41 (0.047 ~ 2.8)
2			0.34	
1		冬季	0.074	0.26 (0.11 ~ 0.68)
2			0.098	
1	平成 16 年度	夏季	0.17	
2			0.26	
1		冬季	0.081	
2			0.11	

注 1) ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg-TEQ/L 以下（環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日）」です。水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公共用水域及び地下水に適用されます。

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 16 年度ダイオキシン類環境調査結果（環境森林部地球温暖化対策室、平成 17 年 5 月 30 日）」で、値は夏季・冬季とも「平均値（最小値～最大値）」を示しています。

表 - 14 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類：年平均値）

（単位：pg-TEQ/L）

地点	平成 17 年度事後調査	三重県の調査結果 (41 地点の年平均値)
1	0.25	0.30 (0.047 ~ 1.6)
2	0.22	

注) 三重県の調査結果は、「平成 16 年度ダイオキシン類環境調査結果（環境森林部地球温暖化対策室、平成 17 年 5 月 30 日）」で、値は年間の「平均値（地点別平均値の最小値～最大値）」を示しています。

表 - 15 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類以外の検出された物質のみ）

物質名	単位	1		2	
		平成 17 年度 冬季	平成 16 年度 冬季	平成 17 年度 冬季	平成 16 年度 冬季
ビスフェノール A	μg/L	0.02	0.04	0.02	0.04
フタル酸ジ-n-ブチル	μg/L	<0.5	<0.5	0.5	<0.5
メソミル	μg/L	<0.03	<0.03	0.03	<0.03

最終処分場計画地内の2地点において、地下水の水質調査を実施しました。

その結果、検出された項目のみを抜粋して表 - 16 に示しました。

表 - 16 (1) 調査結果 (A : 検出された項目のみ抜粋)

項目	単 位	4月13日	7月7日	10月12日	1月24日
外 観	-	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	-	6.1	7.2	6.1	7.5
B O D	mg-O/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
C O D (M n)	mg-O/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
亜 鉛	mg/L	0.48	0.46	0.36	0.39
溶解性鉄	mg/L	0.04	0.06	0.06	0.07
溶解性マンガン	mg/L	0.01	0.01	0.01	<0.01
全窒素	mg-N/L	7.2	6.3	5.8	6.6
全 磷	mg-P/L	0.003	0.007	0.010	0.004
硬 度	mg/L	51	42	45	51
電気伝導率	mS/m	16	12	14	9.4
硫酸イオン	mg/L	15	16	15	15
大腸菌群数 (M P N)	MPN/100mL	0	0	0	0
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	-	6.6

表 - 16 (2) 調査結果 (B : 検出された項目のみ抜粋)

項目	単 位	4月13日	7月7日	10月12日	1月24日
外 観	-	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	-	7.3	7.2	7.3	7.6
B O D	mg-O/L	0.5	0.9	<0.5	<0.5
C O D (M n)	mg-O/L	1.4	0.7	0.7	0.8
亜 鉛	mg/L	0.03	0.05	0.03	0.02
溶解性鉄	mg/L	0.43	0.47	0.37	0.4
溶解性マンガン	mg/L	0.1	0.11	0.11	0.1
全窒素	mg-N/L	0.12	0.06	0.06	0.12
全 磷	mg-P/L	0.21	0.24	0.22	0.23
硬 度	mg/L	44	39	37	39
電気伝導率	mS/m	11	9.8	11	8
硫酸イオン	mg/L	2	2	2	1
大腸菌群数 (M P N)	MPN/100mL	0	0	0	0
ふっ素	mg/L	0.13	0.14	0.13	0.12
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	-	<0.02

また、冬季にはダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しましたが、ダイオキシン類以外の項目は検出されませんでした。

ダイオキシン類の調査結果は表 - 17 に示したとおりで、昨年度の値をやや下回る結果でした。

表 - 17 ダイオキシン類調査結果

物質名	単位	平成 17 年度		平成 16 年度	
		A	B	A	B
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.055	0.055	0.067	0.067

2 - 6 土 壤

施設及び最終処分場計画地周辺 7 地点において、10 月、11 月にダイオキシン類の調査を、また、定点 6 地点（ 1 ～ 6 ）で環境基準項目及びダイオキシン類を除く環境ホルモンの調査を実施しました。

その結果、環境基準項目では、ふっ素が全地点で検出されましたが、その他の項目は全て定量下限値未満でした。

ダイオキシン類の調査結果は表 - 18 に示したとおり、0.36～14pg-TEQ/g の範囲であり、平成 12 年 1 月から施行されたダイオキシン類対策特別措置法に基づく土壤の汚染に係る環境基準 1,000pg-TEQ/g を大きく下回る結果でした。

また、三重県が平成 16 年度に実施した調査結果と比較しても同調査結果の範囲内でした。

表 - 18 土壤のダイオキシン類調査結果

(単位 : pg-TEQ/g-dry)

調査地点 調査年度	1 (水田と小河川 の間の畦道)	2 (運動広場の グラウンド)	3 (耕作地に隣接する 作業用道路)	4 (水田と水路の 間の畦道)
平成 17 年度 事後調査	5.9	1.4	5.3	14
平成 16 年度 事後調査	7.6	0.22	3.0	13

調査地点 調査年度	5 (グラウンド横の 進入道路)	6 (処分場跡地)	7 (耕作地の法面)	三重県の調査結果 (47地点)
平成 17 年度 事後調査	0.36	1.6	2.1	4.6 (0.012～68)
平成 16 年度 事後調査	0.16	0.27	16	-

注 1) ダイオキシン類の土壤の汚染に係る環境基準は、「1,000pg-TEQ/ g 以下 (環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日)」です。(土壤にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壤中のダイオキシン類の量が 250pg-TEQ/ g 以上の場合には、必要な調査を実施することとなっています。)

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 16 年度ダイオキシン類環境調査結果 (環境森林部地球温暖化対策室、平成 17 年 5 月 30 日)」で、値は「平均値 (最小値～最大値)」を示しています。

環境ホルモンの調査結果は表 - 19 に示したとおりです。

その結果、 2、 3、 4 の調査結果で、フタル酸ジ- 2 -エチルヘキシルが他の調査地点と比べて高い値が得られましたが、その他の項目はいずれも低い値でした。

表 - 19 土壌の環境ホルモン調査結果

(単位：μg/kg-dry)

項 目	調査地点	1	2	3	4	5	6
ポリ塩化ビフェニル類 (PCB)	平成 17 年度事後調査	0.53	1.3	2.2	1.5	3.0	1.9
	平成 16 年度事後調査	0.75	0.92	1.6	1.3	0.75	2.1
ベンゾ(a)ピレン	平成 17 年度事後調査	4	16	6	10	2	41
	平成 16 年度事後調査	4	6	2	5	1	26
ビスフェノール A	平成 17 年度事後調査	<1	<1	<1	1	<1	<1
	平成 16 年度事後調査	<1	2	2	<1	<1	<1
フタル酸ジ-2-エチル ヘキシル	平成 17 年度事後調査	<25	110	260	130	25	34
	平成 16 年度事後調査	35	97	380	45	50	450

なお、上記の物質以外にフタル酸ジエチル、フタル酸ブチルベンジル等 6 物質についても調査を実施しましたが、いずれも定量下限値未満でした。

また、土壌調査地点とは別に、施設及び最終処分場計画地周辺 2 地点において、水田土壌調査(11 月)、玄米の調査(8 月、9 月)を実施しました。

水田土壌調査では、銅及び砒素の調査を実施しましたが、銅については、A で 8 mg/kg、B で 7 mg/kg、砒素は A で 0.6mg/kg、B で 1.1mg/kg でした。

また、玄米についてダイオキシン類及びカドミウムの調査を実施しました。

ダイオキシン類については、表 - 20 に示したとおり 0.000017～0.00084pg-TEQ/g であり、昨年の調査結果及び三重県の実施した調査結果を下回る値でした。

カドミウムについては、両地点とも定量下限値(0.1mg/kg)未満でした。

表 - 20 玄米中のダイオキシン類調査結果

(単位：pg-TEQ/g-wet)

	A	B
平成 17 年度事後調査	0.00084	0.000017
平成 16 年度事後調査	0.0012	0.00085
三重県の調査結果(n=11)	0.010(0.0024～0.028)	

注) 三重県の調査結果は、「平成 16 年度ダイオキシン類環境調査結果(環境森林部地球温暖化対策室、平成 17 年 5 月 30 日)」で、値は「平均値(最小値～最大値)」を示しています。

2 - 7

特筆すべき動物

2 - 7 - 1 オオタカ・ハイタカ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物であるオオタカ、ハイタカの調査を平成 17 年 4 月 12 日と、平成 18 年 1 月 12 日、2 月 7 日、3 月 14 日に実施しました。

その結果、オオタカ、ハイタカとも確認することはできませんでした。

2 - 7 - 2 フクロウ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物であるフクロウの調査を平成 17 年 4 月 11 日と、平成 18 年 1 月 17 日、2 月 21 日、3 月 29 日の夜間に実施しました。

その結果、4 月調査時に最終処分場計画地北西側の林内において本種の鳴き声を確認しましたが、鳴き声は 1 回確認したのみで、雌雄の鳴き交わしなど繁殖を示唆する行動は確認できませんでした。

2 - 7 - 3 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物で、夏鳥のチュウサギ及びサンショウクイの調査を平成 17 年 6 月 14 日に、冬鳥のタゲリの調査を平成 17 年 12 月 20 日に実施しました。

その結果、3 種とも確認できませんでした。

2 - 7 - 4 ゲンジボタル

最終処分場計画地内を流れる天白川において、成虫を確認するため、平成 17 年 6 月 9 日に夜間調査を実施しました。

その結果、表 - 21 に示したとおり昨年の確認数よりは下回りますが、270 個体以上の多くの個体を確認しました。

確認位置は、最終処分場計画地内の天白川に広く分布していました。

また、同地点で、冬季の平成 18 年 2 月 28 日に、幼虫調査を実施しました。

その結果、成虫の確認場所を中心に 3 個体の幼虫を確認しました。

表 - 21 ゲンジボタル調査実施日及び結果

調査年月日		確認数 (個体)
平成 17 年度事後調査	平成 17 年 6 月 9 日	270 以上
平成 16 年度事後調査	平成 16 年 6 月 7 日	600 以上

2 - 7 - 5 ムカシヤンマ・ハルゼミ・トゲアリ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物であるムカシヤンマ、ハルゼミの調査を平成 17 年 5 月 11 日に、トゲアリの調査を平成 17 年 5 月 27 日に実施しました。

その結果、最終処分場計画地内の 1 ヶ所においてムカシヤンマの成虫 2 個体を確認しました。
ハルゼミ、トゲアリは確認できませんでした。

2 - 8	水生生物（淡水魚類）
-------	------------

最終処分場計画地内を流れる天白川（P.1 及び P.2 の調査地点）において淡水魚類調査を実施しました。

調査の結果は表 - 22 に示したとおりで、秋季の P.2 が著しく多い結果でした。

また、表 - 23 に示した昨年度調査時と比較しても、全体的に P.1 よりも P.2 の方が魚類の生息数が多いと考えられる結果でした。

表 - 22 淡水魚類調査結果（平成 17 年度）

調査方法	種 名	春 季 (H17.5.27)		夏 季 (H17.8.24)		秋 季 (H17.11.30)		冬 季 (H18.2.28)	
		調査地点		調査地点		調査地点		調査地点	
		P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2
カゴ網	カワムツ	11	24	5	1		21		1
	タモロコ			1	3		1		
	オイカワ		34				4		
	種 数	1	2	2	2	0	3	0	1
	個体数	11	58	6	4	0	26	0	1
セルビン	カワムツ	7	1	1	1		93		9
	オイカワ				2	2	20		
	タモロコ			1	2		3		
	種 数	1	1	2	3	1	3	0	1
	個体数	7	1	2	5	2	116	0	9
タモ網	オイカワ								
	カワムツ								
	カワヨシノボリ								
	タモロコ								
	種 数	2	1	3	2	3	4	3	3

注)タモ網による捕獲については、その作業量に比例して捕獲数も多くなるため、種類の確認のみとした。

表 - 23 淡水魚類調査結果（参考：平成 16 年度）

調査方法	種 名	春 季 (H16.5.24)		夏 季 (H16.8.12)		秋 季 (H16.11.26)		冬 季 (H17.2.25)	
		調査地点		調査地点		調査地点		調査地点	
		P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2
カゴ網	カワムツ		1	1	19	2	16		
	タモロコ				4				
	オイカワ				4		3		
	種 数	0	1	1	3	1	2	0	0
	個体数	0	1	1	27	2	19	0	0
セルビン	カワムツ		23	2	10	20		12	
	オイカワ		5		1				
	種 数	0	2	1	2	1	0	1	0
	個体数	0	28	2	11	20	0	12	0
タモ網	カワムツ								
	カワヨシノボリ								
	オイカワ								
	タモロコ								
	種 数	1	2	2	4	2	4	2	3

注）タモ網による捕獲については、その作業量に比例して捕獲数も多くなるため、種類の確認のみとした。

施設及び最終処分場計画地周辺の5地点において、大気質モニタリング指標種（ウメノキゴケ、マツゲゴケ等）の調査を平成17年4月27日、7月13日、10月25日、平成18年1月11日に実施しました。

本調査は、大気汚染の影響を受けやすいウメノキゴケ等の生育状況を把握することにより、施設稼働による長期的な大気汚染の変化を把握することとしています。

調査の結果は表-24に示したとおり、ウメノキゴケ等の生育状況に大きな変化はみられませんでした。

なお、5については、昨年度の冬季調査時に本種の着生木を含む周辺一帯の樹木が伐採され調査ができなくなったことから、以後の調査では調査対象を北側に位置する同種に変更して実施していました。しかし、夏季調査後に行われた枝打ち作業等により、本株が剥がれ落ちた形跡があり調査ができなくなりました。そのため、秋季調査からは同株の下に生育していた別の株に変更して実施しました。

表-24(1) ウメノキゴケ等生育状況

時季	地 点	生育木	大きさ(cm)	色	細 胞	備 考
春季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	2	ケヤキ	7.0×4.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	12.0×11.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化が著しく、樹皮の落下に伴う欠落がみられる そのため、生育状況は「一面に生育」から「点在して生育」に変わりつつある
	5	スギ	6.5～5.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育は良好 すぐ脇にはもう一株が小さいながらも良好に生育している

注)「欠落」とは、本種が他の要因（人為的、着生木の成長等）により剥離することを指します。

「崩壊」とは、大気汚染等、生育環境の悪化に伴い、細胞が崩壊することを指します。

表 - 24 (2) ウメノキゴケ等生育状況

時季	地 点	生育木	大きさ (cm)	色	細 胞	備 考
夏 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	2	ケヤキ	7.0×4.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	13.5×11.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	4	ソメイヨシノ	広範囲に点在	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	春季調査時よりさらに着生木の老朽化が進み、樹皮の落下に伴う欠落がみられる そのため、生育範囲は「一面に生育」から「点在して生育」に変わるものの、生育状況は良好
	5	スギ	6.5～5.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育は良好 すぐ脇にはもう一株が小さいながらも良好に生育している
秋 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好（木にガムテープが巻いてあるため、今後一部の株に細胞が劣化する可能性がある）
	2	ケヤキ	7.0×4.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	14.0×11.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	4	ソメイヨシノ	広範囲に点在	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	春季調査時よりさらに着生木の老朽化が進み、樹皮の落下に伴う欠落がみられる そのため、生育範囲は「一面に生育」から「点在して生育」に変わるものの、生育状況は良好
	5	スギ	(6.5～5.0)	枯れた	不明	枝打ちをした跡がある そのため本株が削れ、枯れたと考えられる
	5'		2.3～1.8	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好 すぐ下にも小さい株がたくさんある
冬 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好（木にガムテープが巻いてあるため、今後一部の株に細胞が劣化する可能性がある）
	2	ケヤキ	7.5×5.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	14.0×11.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	4	ソメイヨシノ	広範囲に点在	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	春季調査時よりさらに着生木の老朽化が進み、樹皮の落下に伴う欠落がみられる 生育状況は良好
	5'	スギ	2.3～1.8	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好 すぐ下にも小さい株がたくさんある

注)「欠落」とは、本種が他の要因（人為的、着生木の成長等）により剥離することを指します。

「崩壊」とは、大気汚染等、生育環境の悪化に伴い、細胞が崩壊することを指します。